医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品は、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。

ｂ　一般用医薬品には、製品に添付されている文書（添付文書）や製品表示に必要な情報が記載されている。

ｃ　購入者等が、一般用医薬品を適切に選択し、適正に使用するためには、その販売に専門家が関与し、専門用語を分かりやすい表現で伝えるなどの適切な情報提供を行い、また、購入者等が知りたい情報を十分に得ることができるように、相談に対応することが不可欠である。

ｄ　医薬品は、有効性、安全性等に関する情報が集積されており、随時新たな情報が付加されるものである。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	正	誤
２	正	正	誤	正
３	正	誤	正	正
４	誤	正	正	正
５	正	正	正	正

問２

医薬品のリスク評価に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　投与量と効果の関係は、薬物用量の増加に伴い、効果の発現が検出されない「無作用量」から、最小有効量を経て「治療量」に至る。

ｂ　製造販売後安全管理の基準としてGood Post-marketing Study Practice（ＧＰＳＰ）が制定されている。

ｃ　Good Clinical Practice（ＧＣＰ）に準拠した手順で安全な治療量を設定することが新規医薬品の開発に関連する臨床試験（治験）の目標の一つである。

ｄ　治療量を超えた量を単回投与した場合、毒性が発現するおそれはない。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問３

いわゆる「健康食品」と呼ばれる健康増進や維持の助けになることが期待される食品（以下「健康食品」という。）に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　「保健機能食品」は、一定の基準のもと健康増進の効果等を表示することが許可された健康食品である。

ｂ　「特定保健用食品」は、すべて個別に都道府県の審査を受け、許可されたものである。

ｃ　健康食品は、健康増進や維持の助けになることが期待されるため、健康被害を生じることはない。

ｄ　一般用医薬品の販売時にも健康食品の摂取の有無について確認することは重要で、購入者等の健康に関する意識を尊重しつつも、必要があればそれらの摂取についての指導も行うべきである。

１（ａ、ｂ）　２（ｂ、ｃ）　３（ｃ、ｄ）　４（ａ、ｄ）

問４

アレルギー（過敏反応）に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

１　アレルギーにより体の各部位に生じる炎症等の反応をアレルギー症状という。

２　アレルゲンとなり得る添加物としては、タートラジン、カゼイン、亜硫酸ナトリウム、ピロ硫酸カリウム等が知られている。

３　アレルギーは、特定の物質のみによって起こり、体質的・遺伝的な要素はない。

４　牛乳に対するアレルギーがある人は、牛乳を原材料として作られている医薬品の使用を避けなければならない場合がある。

問５

セルフメディケーションに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

１　セルフメディケーションの推進は、医療費の増加やその国民負担の増大を解決し、健康寿命を伸ばすうえで、重要な活動のひとつである。

２　一般用医薬品の販売等を行う登録販売者は、地域医療を支える医療スタッフあるいは行政などとも連携をとって、地域住民の健康維持・増進、生活の質（ＱＯＬ）の改善・向上などに携わることが望まれる。

３　平成２９年１月に、条件を満たした場合にスイッチＯＴＣ医薬品の購入の対価について、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除するセルフメディケーション税制が導入された。

４　令和４年１月にセルフメディケーション税制が見直され、一部の一般用医薬品と特定保健用食品が対象となった。

問６

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　副作用は起きないことが望ましいため､副作用が起きる仕組みや起こしやすい要因の認識、また、それらに影響を与える体質や体調等をあらかじめ把握し、適切な医薬品の選択、適正な使用が図られることが重要である。

ｂ　医薬品が人体に及ぼす作用は、すべて解明されていないが、十分注意して適正に使用すれば副作用が生じることはない。

ｃ　一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等から副作用の発生の経過を十分に聴いて、その後の適切な医薬品の選択に資する情報提供を行う等の対応をする必要がある。

ｄ　一般用医薬品を継続して使用する場合には、特段の異常が感じられなくても医療機関を受診するよう、医薬品の販売等に従事する専門家から促していくことが重要である。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	誤	正	正	誤
２	正	誤	正	正
３	誤	正	誤	正
４	正	誤	正	誤
５	正	正	誤	正

問７

医薬品の不適正な使用と副作用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

１　医薬品の販売等に従事する専門家においては、必要以上の大量購入や頻回購入などを試みる不審な者には慎重に対処する必要があり、積極的に事情を尋ねる、状況によっては販売を差し控えるなどの対応が図られることが望ましい。
２　便秘薬や総合感冒薬などは、その時の不快な症状を抑えるための医薬品であり、長期連用すれば、その症状を抑えていることで重篤な疾患の発見が遅れることがある。
３　医薬品は、その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限となるよう、使用する量や使い方が定められている。
４　一般用医薬品の使用を、症状の原因となっている疾病の根本的な治療や生活習慣の改善等がされないまま、漫然と続けていても、副作用を招くことはない。

問８

医薬品と他の医薬品との相互作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　かぜ薬、解熱鎮痛薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することが多く、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。
ｂ　複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要となる。
ｃ　複数の医薬品を併用した場合、医薬品の作用が増強することがあるが、減弱することはない。
ｄ　医薬品の相互作用は、医薬品が吸収、分布又は代謝（体内で化学的に変化すること）される過程においてのみ起こる。

１（ａ、ｂ）　２（ｂ、ｃ）　３（ｃ、ｄ）　４（ａ、ｄ）

問９

医薬品と食品との相互作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　カフェインやビタミンＡのように、食品中に医薬品の成分と同じ物質が存在するために、それらを含む医薬品（例：総合感冒薬）と食品（例：コーヒー）を一緒に服用すると過剰摂取となるものもある。

ｂ　外用薬や注射薬の作用や代謝は、食品による影響を受ける可能性はない。

ｃ　酒類（アルコール）をよく摂取する者では、肝臓で代謝されるアセトアミノフェンは通常よりも代謝されにくくなるため、体内からアセトアミノフェンが速く消失して十分な薬効が得られなくなることがある。

ｄ　食品と医薬品の相互作用は、しばしば「飲み合わせ」と表現され、食品と飲み薬が体内で相互作用を生じる場合が主に想定される。

１（ａ、ｂ）　２（ｂ、ｃ）　３（ｃ、ｄ）　４（ａ、ｄ）

問10

小児等への医薬品の使用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

１　小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が長く、服用した医薬品の吸収率が相対的に高い。

２　小児は、血液脳関門が未発達であるため、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しにくく、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしにくい。

３　５歳未満の幼児に使用される錠剤やカプセル剤などの医薬品では、服用時に喉につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。

４　小児の誤飲・誤用事故を未然に防止するには、家庭内において、小児が容易に手に取れる場所や、小児の目につく場所に医薬品を置かないようにすることが重要である。

問 11

高齢者の医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

b　高齢者は、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥（えん）下障害）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。

c　高齢者において、生理機能の衰えの度合いは個人差が小さいので、年齢のみから副作用のリスク増大の程度を判断することは容易である。

d　高齢者によくみられる傾向として、医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合等があり、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 12

妊婦又は妊娠していると思われる女性及び母乳を与える女性（授乳婦）への医薬品の使用等に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　吸収された医薬品の一部が乳汁中に移行することが知られていても、通常の使用の範囲では具体的な悪影響が判明していない医薬品もある。

b　一般用医薬品において、多くの場合、妊婦が使用した場合における胎児への安全性に関する評価は容易である。

c　便秘薬のように、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。

d　ビタミンAを含有する製剤においては、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取した場合であっても、胎児に先天異常を起こす危険性が高まることはない。

1（a、c）　2（b、c）　3（b、d）　4（a、d）

問13

医療機関で治療を受けている人等に対し、一般用医薬品を販売する時の情報提供に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人については、登録販売者において一般用医薬品との併用の可否を判断することは困難なことが多く、その薬剤を処方した医師若しくは歯科医師又は調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する必要がある。

b　過去に医療機関で治療を受けていた（今は治療を受けていない）という場合には、どのような疾患について、いつ頃かかっていたのか（いつ頃治癒したのか）を踏まえ、購入者等が使用の可否を適切に判断することができるよう情報提供がなされることが重要である。

c　医療機関で治療を受ける際には、使用している一般用医薬品の情報を医療機関の医師や薬局の薬剤師等に伝えるよう購入者等に説明することが重要である。

d　医療機関での治療は特に受けていない場合であっても、医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその症状を悪化させるおそれがある等、注意が必要なものがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問14

一般用医薬品の役割に関する記述のうち、正しいものはいくつあるか。

a　生活の質（ＱＯＬ）の改善・向上

b　軽度な疾病に伴う症状の改善

c　健康状態の自己検査

d　生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防（科学的・合理的に効果が期待できるものに限る。）

1　1つ　　2　2つ　　3　3つ　　4　4つ　　5　正しいものはない

問 15

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品は、適切な保管・陳列がされたとしても、経時変化による品質の劣化は避けられない。

b　医薬品に表示されている「使用期限」は、開封後の品質状態も考慮した期限である。

c　医薬品に配合されている成分（有効成分及び添加物成分）には、高温や多湿によって品質の劣化（変質・変敗）を起こすものがあるが、光（紫外線）によって品質の劣化を起こすものはない。

d　その品質が承認等された基準に適合しない医薬品、その全部又は一部が変質・変敗した物質から成っている医薬品の販売は禁止されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 16

プラセボ効果（偽薬効果）に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　プラセボ効果は、常に客観的に測定可能な変化として現れる。

2　医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、薬理作用によるもののほか、プラセボ効果によるものも含まれている。

3　プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいものと不都合なものとがある。

4　プラセボ効果は、不確実であり、それを目的として医薬品が使用されるべきではない。

問17

サリドマイドに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　サリドマイド訴訟は、サリドマイド製剤を使用したことにより、認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病が発生したことに対する損害賠償訴訟である。

b　サリドマイドは催眠鎮静成分として承認された（その鎮静作用を目的として、胃腸薬にも配合された）が、副作用として血管新生を妨げる作用もあった。

c　サリドマイドの光学異性体のうち、*R*体のサリドマイドを分離して製剤化することで血管新生を妨げる作用を避けることができる。

d　サリドマイドによる薬害事件は、日本のみならず世界的にも問題となったため、世界保健機関加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問18

スモン訴訟及びC型肝炎訴訟に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

スモン訴訟は、整腸剤として販売されていた（　a　）を使用したことにより、（　b　）に罹(り)患したことに対する損害賠償訴訟である。

また、C型肝炎訴訟は、出産や手術での大量出血などの際に特定の（　c　）や血液凝固第Ⅸ因子製剤の投与を受けたことにより、C型肝炎ウイルスに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

	a	b	c
1	キノホルム製剤	亜急性脊髄視神経症	フィブリノゲン製剤
2	キノホルム製剤	混合性結合組織病	フィブリノゲン製剤
3	フィブリノゲン製剤	混合性結合組織病	インターフェロン製剤
4	フィブリノゲン製剤	亜急性脊髄視神経症	インターフェロン製剤
5	キノホルム製剤	亜急性脊髄視神経症	インターフェロン製剤

問19

ヒト免疫不全ウイルス（ＨＩＶ）訴訟に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

ＨＩＶ訴訟は、血友病患者が、ＨＩＶが混入した原料（　ａ　）から製造された（　ｂ　）製剤の投与を受けたことにより、ＨＩＶに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

本訴訟の和解を踏まえ、ＨＩＶ感染者に対する恒久対策のほか、緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための「（　ｃ　）」制度の創設等を内容とする改正薬事法が１９９６年に成立し、翌年４月に施行された。

	a	b	c
1	血漿（しょう）	免疫グロブリン	緊急輸入
2	血小板	血液凝固因子	緊急命令
3	血漿（しょう）	血液凝固因子	緊急輸入
4	血小板	免疫グロブリン	緊急命令
5	血漿（しょう）	免疫グロブリン	緊急命令

問20

クロイツフェルト・ヤコブ病（ＣＪＤ）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　ウシ乾燥硬膜の原料が、プリオン不活化のための十分な化学的処理が行われないまま製品として流通し、この製品が脳外科手術で移植された患者にＣＪＤが発生した。

ｂ　ＣＪＤ訴訟等を契機として、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による生物由来製品による感染等被害救済制度の創設等がなされた。

ｃ　ＣＪＤは、ウイルスの一種であるプリオンが脳の組織に感染することによって発症する。

ｄ　ＣＪＤの症状としては、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺（しび）れや脱力、歩行困難が現れる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

主な医薬品とその作用

問21

かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　かぜの症状は、くしゃみ、鼻汁・鼻閉（鼻づまり）、咽喉痛、咳（せき）、痰（たん）等の呼吸器症状と、発熱、頭痛、関節痛、全身倦（けん）怠感等、様々な全身症状が組み合わさって現れる。

b　かぜの約８割は細菌の感染が原因であるが、それ以外にウイルスの感染や、まれに冷気や乾燥、アレルギーのような非感染性の要因による場合もある。

c　かぜ薬は、咳（せき）で眠れなかったり、発熱で体力を消耗しそうなときなどに、それらの諸症状の緩和を図る対症療法薬である。

d　かぜであるからといって必ずしもかぜ薬を選択するのが最適とは限らず、存在しない症状に対する不要な成分が配合されていると、無意味に副作用のリスクを高めることとなる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問22

かぜ薬（総合感冒薬）に配合される成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　サイコは、解熱作用を期待して配合されている場合がある。

2　ノスカピンは、中枢神経系に作用して鎮咳（がい）作用を示す。

3　キキョウは、気管・気管支を拡げる作用を期待して配合されている場合がある。

4　グリチルリチン酸二カリウムは、鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげることを目的として配合されている場合がある。

問23

第１欄の記述は、かぜ薬（総合感冒薬）として用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第２欄のどれか。

第１欄

体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰（たん）を伴う咳（せき）や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息（ぜん）、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第２欄

１　葛根湯（かっこんとう）
２　麻黄湯（まおうとう）
３　小青竜湯（しょうせいりゅうとう）
４　桂枝湯（けいしとう）
５　麦門冬湯（ばくもんどうとう）

問24

かぜ薬（総合感冒薬）に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ヨウ化イソプロパミドは、抗コリン作用により鼻汁分泌やくしゃみを抑える作用を示す。
b　アスピリン（アスピリンアルミニウムを含む。）は、１５歳未満の小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。
c　フルスルチアミン塩酸塩は、粘膜の健康維持・回復を目的として配合されている場合がある。
d　グアイフェネシンは、体内での起炎物質の産生を抑制することで炎症の発生を抑え、腫れを和らげる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問25

カフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦(けん)怠感を抑える効果がある。
b　腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進があり、尿量の増加（利尿）をもたらす。
c　作用は弱いながら反復摂取により依存を形成するという性質があるため、「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」という注意喚起がなされている。
d　眠気防止薬におけるカフェインの１回摂取量はカフェインとして２００mg、１日摂取量はカフェインとして５００mg が上限とされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問26

眠気を促す薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ブロモバレリル尿素は、反復して摂取すると依存を生じることが知られており、本来の目的から逸脱した使用（乱用）がなされることがある。
b　抑肝散(よくかんさん)は、不眠症状の改善を目的として使用されるが、構成生薬としてダイオウを含むため、下痢等の副作用に注意が必要である。
c　生薬成分のみからなる鎮静薬であっても、複数の鎮静薬の併用や、長期連用は避けるべきである。
d　抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的に不眠症状がある人を対象とするものである。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問27

鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　芍薬甘草湯は、まれに重篤な副作用として、うっ血性心不全や心室頻拍を生じることが知られており、心臓病の診断を受けた人では使用を避ける必要がある。
2　桂枝加朮附湯は、動悸、のぼせ、ほてり等の副作用が現れやすい等の理由で、のぼせが強く赤ら顔で体力が充実している人には不向きとされる。
3　薏苡仁湯は、悪心・嘔吐、胃部不快感等の副作用が現れやすい等の理由で、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人には不向きとされる。
4　当帰四逆加呉茱萸生姜湯は、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れやすい等の理由で、胃腸虚弱で冷え症の人には不向きとされる。

問28

第１欄の記述は、鎮暈薬（乗物酔い防止薬）の配合成分に関するものである。該当する配合成分は第２欄のどれか。

第１欄

抗ヒスタミン成分であり、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。外国において、乳児突然死症候群や乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、１５歳未満の小児では使用を避ける必要がある。

第２欄

1　プロメタジン塩酸塩
2　スコポラミン臭化水素酸塩水和物
3　アリルイソプロピルアセチル尿素
4　ジフェニドール塩酸塩
5　ジフェンヒドラミンテオクル酸塩

問29

鎮咳去痰薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　マオウは、アドレナリン作動成分と同様の作用を示し、気管支を拡張させる。
b　ゴミシは、マツブサ科のチョウセンゴミシの果実を基原とする生薬で、体内で分解された代謝物の一部が延髄の呼吸中枢、咳嗽中枢を鎮静させる作用を示すとされる。
c　ブロムヘキシン塩酸塩は、粘液成分の含量比を調整し痰の切れを良くする作用を示す。
d　ジプロフィリンは、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる。

1（a、c）　2（b、c）　3（b、d）　4（a、d）

問30

口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　日本薬局方収載の複方ヨード・グリセリンは、グリセリンにヨウ化カリウム、ヨウ素、ハッカ水、液状フェノール等を加えたもので、喉の患部に塗布して声がれ、喉の腫れ等の症状を鎮めることを目的として用いられる。
b　セチルピリジニウム塩化物は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して配合されている場合がある。
c　クロルフェニラミンマレイン酸塩は、咽頭の粘膜に付着したアレルゲンによる喉の不快感等の症状を鎮めることを目的として配合されている場合があるが、咽頭における局所的な作用を目的としているため、内服薬と同様な副作用が現れることはない。
d　ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンC等の成分と反応すると脱色を生じて殺菌作用が失われるため、ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬では、そうした食品を摂取した直後の使用や混合は避けることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問31

胃の薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　酸化マグネシウムは、中和反応によって胃酸の働きを弱めること（制酸）を目的として配合されている場合がある。

b　テプレノンは、胃粘膜の炎症を和らげることを目的として配合されている場合があるが、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることがある。

c　アカメガシワは、味覚や嗅覚を刺激して反射的な唾液や胃液の分泌を促すことにより、弱った胃の働きを高めることを目的として配合されている場合がある。

d　ウルソデオキシコール酸は、胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。

1（a、c）　2（b、c）　3（b、d）　4（a、d）

問32

腸の薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ベルベリンは、生薬のオウバクやオウレンの中に存在する物質のひとつであり、抗菌作用のほか、抗炎症作用も併せ持つとされる。

b　木（もく）クレオソートは、瀉（しゃ）下作用のほか、局所麻酔作用もあるとされる。

c　乳酸カルシウムは、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として配合されている場合がある。

d　ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸では分解されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解されて、大腸への刺激作用を示すようになる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問33

胃腸鎮痛鎮痙薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　メチルベナクチジウム臭化物は、抗コリン作用により、胃痛、腹痛、さしこみ（疝痛、癪）を鎮めること（鎮痛鎮痙）のほか、胃酸過多や胸やけに対する効果も期待して用いられる。

b　パパベリン塩酸塩は、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用と、胃液分泌を抑える作用を示す。

c　オキセサゼインは、消化管の粘膜及び平滑筋に対する麻酔作用による鎮痛鎮痙の効果を期待して配合されている場合がある。

d　ロートエキスは、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の脈が遅くなるおそれがある。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問34

浣腸薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　浣腸薬は一般に、直腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがあるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けるべきである。

b　腹痛が著しい場合や便秘に伴って吐きけや嘔吐が現れた場合には、急性腹症（腸管の狭窄、閉塞、腹腔内器官の炎症等）の可能性があり、浣腸薬の配合成分の刺激によってその症状を悪化させるおそれがある。

c　炭酸水素ナトリウムを主薬とする坐剤では、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促すが、まれに重篤な副作用としてショックを生じることがある。

d　注入剤の半量等を使用する用法がある場合、残量を再利用するためには冷蔵庫で保管する必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問35

駆虫薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1　一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫、蟯虫及び条虫（いわゆるサナダ虫など）である。
2　腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばない。
3　消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、食後に使用することとされているものが多い。
4　駆虫効果を高めるため、複数の駆虫薬を併用することが望ましい。

問36

強心薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕いて服用することとされている。
b　ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
c　リュウノウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。
d　苓桂朮甘湯には、強心作用が期待される生薬が含まれているため、通常用量においても、悪心（吐きけ）、嘔吐の副作用が現れることがある。

1（a、c）　2（b、c）　3（b、d）　4（a、d）

問37

脂質異常症に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医療機関で測定する検査値として、低密度リポタンパク質（ＬＤＬ）が（　ａ　）mg/dL 以上、高密度リポタンパク質（ＨＤＬ）が（　ｂ　）mg/dL 未満、中性脂肪が（　ｃ　）mg/dL 以上のいずれかである状態を、脂質異常症という。

	a	b	c
1	１４０	４０	１５０
2	１４０	４０	１４０
3	１４０	５０	１５０
4	１５０	４０	１４０
5	１５０	５０	１４０

問38

高コレステロール改善薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　高コレステロール改善薬は、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺(しび)れ）の緩和等を目的として使用される。

b　ビタミンＢ２は、コレステロールの生合成抑制と排泄(せつ)・異化促進作用、中性脂肪抑制作用、過酸化脂質分解作用を有すると言われている。

c　パンテチンは、低密度リポタンパク質（ＬＤＬ）等の異化排泄(せつ)を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を低下させて、高密度リポタンパク質（ＨＤＬ）産生を高める作用があるとされている。

d　リノール酸には、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問39

貧血用薬（鉄製剤）には、貧血を改善するためビタミン成分が配合されている場合がある。

次の１～５で示されるビタミンのうち、鉄が消化管内で吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられるものはどれか。

１　ビタミンＡ
２　ビタミンＢ１
３　ビタミンＢ６
４　ビタミンＢ１２
５　ビタミンＣ

問40

循環器用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　ユビデカレノンは、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされ、１５歳未満の小児向けの製品もある。
ｂ　三黄瀉心湯（さんおうしゃしんとう）を鼻血に用いる場合には、漫然と長期の使用は避け、５～６回使用しても症状の改善がみられないときは、いったん使用を中止して専門家に相談がなされるなどの対応が必要である。
ｃ　イノシトールヘキサニコチネートは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされ、ビタミンＥと組み合わせて用いられる場合が多い。
ｄ　七物降下湯（しちもつこうかとう）は、体力中等度以下で、顔色が悪くて疲れやすく、胃腸障害のないものの高血圧に伴う随伴症状（のぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重）に適すとされるが、１５歳未満の小児への使用は避ける必要がある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	正	誤
２	正	正	誤	正
３	正	誤	正	正
４	誤	正	正	正
５	正	正	正	正

問41

痔の薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　局所への穏やかな刺激によって痒みを抑える効果を期待して、熱感刺激を生じさせるクロタミトンが配合されている場合がある。

b　酸化亜鉛は、粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護・止血を目的として、外用痔疾用薬に配合されている場合がある。

c　組織修復成分であるアラントインは、痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、外用痔疾用薬に配合されている場合がある。

d　カイカクは、主に麻酔作用を期待して内用痔疾用薬に配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問42

第１欄の記述は、泌尿器用薬として使用される漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第２欄のどれか。

第１欄

体力に関わらず使用でき、排尿異常があり、ときに口が乾くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる。

第２欄

1　八味地黄丸
2　竜胆瀉肝湯
3　猪苓湯
4　牛車腎気丸
5　六味丸

問43

婦人薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　漢方処方製剤である温経湯（うんけいとう）は、構成生薬としてマオウを含む。
2　鎮痛・鎮痙（けい）の作用を期待して、シャクヤク、ボタンピが配合されている場合がある。
3　エチニルエストラジオールは、長期連用により血栓症を生じるおそれがある。
4　センキュウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壮、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。

問44

次の表は、ある一般用医薬品のビタミン主薬製剤に含まれている主な有効成分の一覧である。この医薬品に関する記述のうち、正しい組み合わせはどれか。

２錠中	
レチノールパルミチン酸エステル	２．３５４㎎
チアミン硝酸塩	１０㎎
ピリドキシン塩酸塩	１５㎎
シアノコバラミン	１０μg
ニコチン酸アミド	２５㎎
トコフェロールコハク酸エステルカルシウム	１２㎎

a　この製剤はビタミン主薬製剤であり、多く摂取しても過剰症が生じるおそれはない。
b　レチノールパルミチン酸エステルは、夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要である。
c　この製剤は、授乳婦の使用を避ける必要がある。
d　シアノコバラミンは、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問45

内服アレルギー用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ジフェンヒドラミン塩酸塩は、母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合には授乳を避ける必要がある。
b　メキタジンは、まれに重篤な副作用として血小板減少を生じることがある。
c　生薬成分であるサイシンは、鼻づまり（鼻閉）への効果を期待して用いられる。
d　プソイドエフェドリン塩酸塩は、高血圧の診断を受けた人では症状を悪化させるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問46

鼻炎と鼻炎用点鼻薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ヒスタミンの働きを抑えることにより、鼻アレルギー症状の緩和を目的として、フェニレフリン塩酸塩が配合されている場合がある。
b　急性鼻炎は、かぜの随伴症状として現れることが多く、鼻粘膜が刺激に対して敏感になることから、肥満細胞からヒスタミンが遊離してくしゃみや鼻汁等の症状を生じやすくなる。
c　テトラヒドロゾリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、血管が拡張して鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすくなる。
d　ベンザルコニウム塩化物などの陽性界面活性成分は、ウイルスによる二次感染を防止することを目的として配合されている場合があるが、カンジダ等の真菌類には効果がない。

1（a、b）　2（b、c）　3（c、d）　4（a、d）

問47

眼科用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品の点眼薬は、その主たる配合成分から、人工涙液、一般点眼薬、抗菌性点眼薬、アレルギー用点眼薬、緑内障用点眼薬に大別される。

b　点眼薬の１滴の薬液の量は、結膜嚢（のう）の容積よりも少ないため、副作用を抑えて、より高い効果を得るには、薬液が結膜嚢（のう）内に行き渡るよう一度に数滴点眼することが効果的とされる。

c　洗眼薬は、目の洗浄や眼病予防に用いられるものであり、抗炎症成分や抗ヒスタミン成分が配合されているものはない。

d　１回使い切りタイプとして防腐剤を含まない点眼薬では、ソフトコンタクトレンズ装着時にも使用できるものがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問48

目の調節機能を改善する配合成分に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

目を酷使すると、目の調節機能が低下し、目の疲れやかすみといった症状を生じるが、ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを（　a　）作用を示し、（　b　）におけるアセチルコリンの働きを（　c　）ことで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。

	a	b	c
1	助ける	水晶体	抑える
2	助ける	毛様体	抑える
3	助ける	毛様体	助ける
4	抑える	毛様体	助ける
5	抑える	水晶体	助ける

問 49

きず口等の殺菌消毒薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　オキシドール（過酸化水素水）は、作用の持続性が乏しく、組織への浸透性も低い。
b　エタノール（消毒用エタノール）は、比較的皮膚刺激性が低く、創傷面の殺菌・消毒に用いる場合は、脱脂綿やガーゼに浸し患部に貼付して使用することとされている。
c　ポビドンヨードは、外用薬として用いた場合でも、まれにショック（アナフィラキシー）のような全身性の重篤な副作用を生じることがある。
d　ベンゼトニウム塩化物は、石けんと混合すると相乗効果によって殺菌消毒効果が高まる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 50

外皮用薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1　イブプロフェンピコノールは、専ら鎮痛作用を期待して、筋肉痛、関節痛、打撲、捻挫等に用いられる。
2　ケトプロフェンは、紫外線により、使用中又は使用後しばらくしてから重篤な光線過敏症が現れることがあるため、野外活動が多い人では、光線過敏症の副作用を生じることのないピロキシカムが配合された製品に変更することが望ましい。
3　ステロイド性抗炎症成分は、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹（しん）・皮膚炎を抑えることを目的として用いられる。
4　皮膚表面に冷感刺激を与え、軽い炎症を起こして反射的な血管の拡張による患部の血行を促したり、知覚神経を麻痺（ひ）させることによる鎮痛・鎮痒（よう）の効果を期待して、メントール、カンフル等が配合されている場合がある。

問51

みずむし・たむし及びその治療に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　たむしは、皮膚に常在する黄色ブドウ球菌が繁殖することで起こる疾患である。
b　剤形は、皮膚が厚く角質化している部分には、液剤よりも軟膏(こう)が適している。
c　爪に発生する白癬(せん)（爪白癬(せん)）は難治性のため、医療機関（皮膚科）における全身的な治療（内服抗真菌薬の処方）を必要とする場合が少なくない。
d　みずむしやたむしに対する基礎的なケアと併せて、一般用医薬品を２週間位使用しても症状が良くならない場合には、他の一般用医薬品と併用することが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問52

歯槽膿(のう)漏薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　外用薬の場合、口腔(くう)内に食べ物のかすなどが残っている状態のままでは十分な効果が期待できず、口腔(くう)内を清浄にしてから使用することが重要である。
b　銅クロロフィリンナトリウムは、殺菌消毒作用のほか、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して配合される。
c　殺菌消毒作用や抗炎症作用を期待して、チョウジ油（フトモモ科のチョウジの蕾(つぼみ)又は葉を水蒸気蒸留して得た精油）が配合されている場合がある。
d　コラーゲン代謝を改善して炎症を起こした歯周組織の修復を助け、また、毛細血管を強化して炎症による腫れや出血を抑える効果を期待して、ビタミンAが配合されている場合がある。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問53

口内炎及びその治療に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　口内炎は、栄養摂取の偏り、ストレスや睡眠不足、唾液分泌の低下、口腔(くう)内の不衛生などが要因となって生じることが多いとされ、通常であれば１～２週間で自然寛解する。

b　口内炎が再発を繰り返す場合には、ベーチェット病などの可能性も考えられるので、医療機関を受診するなどの対応が必要である。

c　ステロイド性抗炎症成分であるアズレンスルホン酸ナトリウムは、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。

d　シコンは、ムラサキ科のムラサキの葉を基原とする生薬で、患部からの細菌感染を防止することを期待して口内炎用薬に用いられる。

１（a、b）　　２（b、c）　　３（c、d）　　４（a、d）

問54

ニコチン及びニコチンを有効成分とする禁煙補助剤に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ニコチンは交感神経系を抑制する作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を減弱させるおそれがある。

b　咀嚼(そしゃく)剤は、口腔(くう)内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔(くう)内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。

c　禁煙補助剤の使用中又は使用直後の喫煙は、血中のニコチン濃度が急激に高まるおそれがあり、避ける必要がある。

d　妊婦又は妊娠していると思われる女性は、速やかに禁煙を達成するため、禁煙補助剤を積極的に使用することが望ましい。

１（a、c）　　２（b、c）　　３（b、d）　　４（a、d）

問55

滋養強壮保健薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　システインは、骨や歯の形成に必要な栄養素であり、過剰症として高カルシウム血症が知られている。
2　アミノエチルスルホン酸（タウリン）は、筋肉や脳、心臓、目、神経等、体のあらゆる部分に存在し、細胞の機能が正常に働くために重要な物質である。
3　ヘスペリジンは、ビタミン様物質のひとつで、ビタミンCの吸収を助ける等の作用があるとされる。
4　アスパラギン酸ナトリウムは、骨格筋に溜まった乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。

問56

漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤は、中薬と呼ばれ、漢方薬と同じものを指す。
b　全ての漢方処方製剤は、症状そのものの改善を主眼としており、２週間を超えて使用してはならない。
c　漢方の病態認識には虚実、陰陽、気血水、五臓などがある。
d　漢方処方製剤は作用が穏やかであるため、間質性肺炎や肝機能障害のような重篤な副作用は起こらない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問57

消毒薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

b　エタノールは、微生物のタンパク質を変性させることにより、殺菌消毒作用を示す。

c　次亜塩素酸ナトリウムは、アルカリ性の洗剤・洗浄剤と反応して有毒な塩素ガスが発生するため、混ざらないように注意する必要がある。

d　酸性の消毒薬が誤って目に入った場合は、直ちに中和剤を用いて中和することとされている。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問58

衛生害虫に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　ハエの防除の基本は、ウジの防除であり、防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。

2　蚊は、水のある場所に産卵し、幼虫（ボウフラ）となって繁殖するが、ボウフラが成虫にならなければ保健衛生上の有害性はない。

3　ゴキブリの卵は医薬品の成分が浸透しやすい殻で覆われているため、孵（ふ）化する前であっても燻（くん）蒸処理を行うことは有効である。

4　ノミによる保健衛生上の害としては、主に吸血されたときの痒（かゆ）みであるが、ノミは、元来、ペスト等の病原細菌を媒介する衛生害虫である。

問59

第１欄の記述は、衛生害虫の防除を目的とする殺虫剤の成分に関するものである。第１欄の作用機序を示す成分は第２欄のどれか。

第１欄

除虫菊の成分から開発された成分で、比較的速やかに自然分解して残効性が低いため、家庭用殺虫剤に広く用いられている。殺虫作用は、神経細胞に直接作用して神経伝達を阻害することによるものである。

第２欄

１　ジクロルボス
２　プロポクスル
３　メトプレン
４　フェノトリン
５　フェニトロチオン

問60

妊娠及び妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　妊娠の初期に比べると、妊娠の後期は、胎児の脳や内臓などの諸器官が形づくられる重要な時期であり、母体が摂取した物質等の影響を受けやすい時期でもある。
ｂ　妊娠検査薬は、尿中のヒト絨（じゅう）毛性性腺刺激ホルモン（ｈＣＧ）の有無を調べるものであり、通常、実際に妊娠が成立してから１週目前後の尿中ｈＣＧ濃度を検出感度としている。
ｃ　妊娠検査薬の検体は、尿中ｈＣＧが検出されやすい早朝尿（起床直後の尿）が向いているが、尿が濃すぎると、かえって正確な結果が得られないこともある。
ｄ　閉経期に入っている人では、妊娠検査薬の検査結果が陽性となることがある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	誤	誤	正	正
２	正	誤	誤	正
３	正	正	誤	誤
４	正	正	正	誤
５	誤	正	正	正